

学校評価は、子どもたちがより良い教育を享受できるようその教育活動等の成果を検証し学校運営の改善と発展をめざすための取組です。保護者や地域からの期待に応えるとともに、より信頼される学校づくりをめざして今年度のアンケート結果を分析し、来年度に向けた課題を明らかにしたいと考えます。

○調査時期 令和6(2024)年12月

○調査方法 児童・保護者・教職員＝アンケートフォームで回答

○調査人数…児童214(回答211)名(回答率98.6%) 保護者(回答157)世帯(回答率92.5%) 教職員20名

○評価点 4＝そう思う 3＝ややそう思う 2＝あまりそう思わない 1＝そう思わない

○考察…4+3を肯定的評価, 2+1を否定的評価ととらえる。

90%以上 80%以上 70%以下

1 いじめのない学校づくりについて

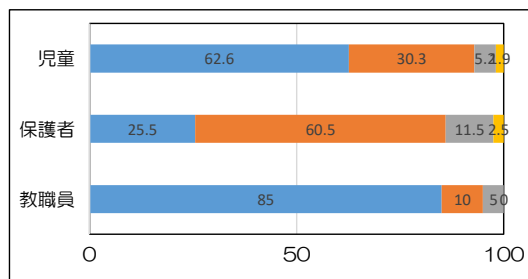
- 児童 1. いじめのない楽しい学校生活を送ることができていますか。
保護者 1. いじめのない楽しい学校だと思いますか。
教職員 1. 学校は、いじめのない楽しい学級・学校づくりに取り組んでいますか。

		4	3	2	1	4+3	R5との比較
児童		62.6	30.3	5.2	1.9	92.9	↑ 7
保護者		25.5	60.5	11.5	2.5	86	↑ 2.8
教職員		85	10	5	0	95	↓ 0.8

回答数

児童	211
保護者	157
教職員	20

R4との比較	
児童	↑ 1.9
保護者	↑ 3
教職員	↑ 1



(考察)

児童の肯定的な回答が92.9%と、昨年度より7%向上している。

肯定的な評価が、児童と教職員で90%以上、保護者も80%以上であるが、「あまりそう思わない」「そう思わない」児童がいることに耳を傾けていく必要がある。学級や学校は、児童にとって安全・安心の場であり、また、楽しく過ごせる場でなければならない。学級や学校での生活に対し不安を感じている児童が、学級の中でいることに、学校は、常に真摯に向きあわなくてはならない。そのためには、教職員は一致団結し、いじめを見逃さない高い意識といじめ根絶・解消に向けた強い決意をもって日々の指導に取り組み、児童全員が楽しく生き生きとした学校生活が送れるよう、今後もさらに努力を積み重ねなければならない。また、全ての教職員が生徒指導上の諸問題を自分の問題としてとらえ、日頃から関心をもって自己研鑽に努めなければならない。さらに、一人一人の児童の人権に配慮し、教職員と児童、児童間で信頼関係に基づく好ましい人間関係が成立するように努めることが肝要である。日々の授業の充実や人権教育・道徳教育・生徒指導を重視しながら児童の豊かな心を育ていけるよう、教職員は日々研鑽を積んでいかなければいけない。

2 あいさつについて

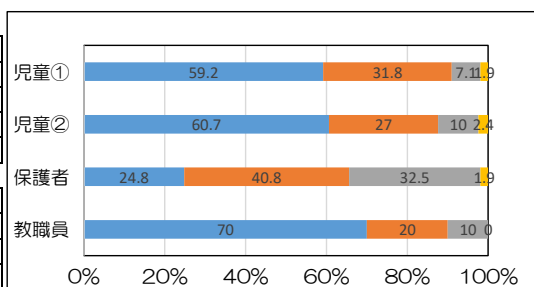
- 児童 1. 先生や友達にあいさつをしていますか。①
2. 家族や地域の方にあいさつをしていますか。②
保護者 2. 子どもたちは、家庭や地域の方に挨拶がよくできていると思いますか。
教職員 2. 児童は教職員や友達に挨拶をよくしていると思いますか。

		4	3	2	1	4+3	R5との比較
児童①		59.2	31.8	7.1	1.9	91	↓ 1.9
児童②		60.7	27	10	2.4	87.7	↑ 1.8
保護者		24.8	40.8	32.5	1.9	65.6	↑ 1.2
教職員		70	20	10	0	90	↑ 40

回答数

児童	211
保護者	157
教職員	20

R4との比較	
児童①	↑ 7
児童②	↑ 1.7
保護者	↓ 11.4
教職員	↑ 13



(考察)

あいさつは、よりよい人間関係を築くための第一歩であり、コミュニケーションづくりの基本である。本校では、「気持ちのよいあいさつ」の励行を掲げ、教職員が率先して「あいさつ運動」を推し進めてきた。

今年度のアンケート結果は、児童の肯定的な回答が91%、87.7%と高い数値を示しており挨拶に意識して取り組んだことが結果として表れていると思われる。一方、保護者は65.6%と児童の評価の間に大きな乖離が見られる。また、地域の方への挨拶については、児童自身も、もう少しできることがあると感じているようである。挨拶をしているという意識は高いものの、より丁寧な挨拶や、状況に応じた挨拶ができるようになるためには、さらなる指導が必要だと考えられる。今後も、毎朝のあいさつ運動をはじめ、様々な場面で挨拶の大切さを伝える活動を継続していきたい。また年齢に応じた挨拶の指導を行い、より丁寧な挨拶ができるよう指導していく必要がある。さらに、地域の皆様と協力し、地域全体で挨拶を大切にする風土づくりを目指していきたい。

3 学校のきまりについて

- 児童 3. 学校のきまりや約束を守って生活することができていますか。
保護者 3. 子どもたちはきまりや約束を守っていると思いますか。
教職員 3. 児童は学校のきまりや約束を守って生活をしていると思いますか。

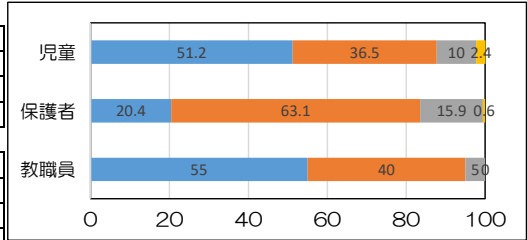
		4	3	2	1	4+3	R5との比較
3	児童	51.2	36.5	10	2.4	87.7	↓ 5.3
3	保護者	20.4	63.1	15.9	0.6	83.5	↓ 1.5
3	教職員	55	40	5	0	95	↑ 11.6

回答数

児童	211
保護者	157
教職員	20

(考察)

R4との比較
↓ 2.3
↑ 2.5
↑ 24



児童、保護者の、肯定的評価がやや低下していることに着目したい。「廊下は右側を静かに歩く」「チャイムを守り行動する」「忘れ物をしない」「交通ルールを守る」等、児童にとって守るべき項目は多岐に渡るが、これらのことを日々意識させ、実践させていくことが、規範意識を高めることの基礎・基本となる。このことを教職員もしっかりと認識し、児童の心にどの場面でも高い規範意識が育つよう、そして学校生活のみならず家庭・地域での生活においても実践できるよう促したい。また、家庭と連携し、家庭でのしつけと学校での指導を一体化させることで、児童の規範意識を高めていくことができる。定期的な連絡や、懇談などを通じて、情報交換を密に行い、共に子どもたちの成長を見守っていききたい。さらに、全ての教職員が、児童の規範意識の育成に努め、温かい雰囲気の学校づくりを目指していききたい。児童が自ら進んできまりを守ろうとするような、魅力的な学校生活を送れるよう、様々な工夫を凝らしていきたい。

4 清掃・美化について

- 児童 4. そうじをがんばっていますか。
保護者 4. 子どもたちは、校舎内の美化に積極的に取り組んでいますか。
教職員 4. 本校は、校内の環境美化に積極的に取り組んでいますか。

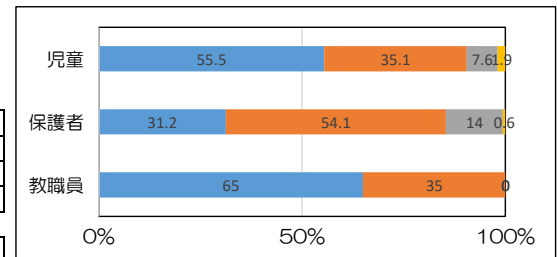
		4	3	2	1	4+3	R5との比較
4	児童	55.5	35.1	7.6	1.9	90.6	↓ 0.2
4	保護者	31.2	54.1	14	0.6	85.3	↑ 4
4	教職員	65	35	0	0	100	↑ 4.2

回答数

児童	211
保護者	157
教職員	20

(考察)

R4との比較
↓ 1.4
↓ 5.7
↑ 23



児童の肯定的評価は、90%を超えており、全般的に清掃の時間内において、児童は、當麻小学校の学び舎に愛着をもって学校の美化に励んでいる。その結果、教職員の肯定的評価も、一昨年度の77%から昨年度95.8%、そして本年度は100%に達している。今後も、これらの取組や児童の校内美化への意識を高めていき、美しい学校づくりを目指していききたい。教職員は、校内の整理整頓に努め今後も自分たちの学校を美しくすることの意義を児童に説くとともに、自分の教室だけでなく各場所に出向き、全体を見渡した指導を日々重ねていかなければならない。また、「きれいに掃除をしたら気持ちが良い」「整っていると心地が良い」という意識付けができるように教職員が率先垂範していききたい。全ての教職員が、児童の清掃意識の向上に努め、清潔で気持ちの良い学校づくりを目指していく必要がある。

また、学校・地域・パートナーシップ事業コーディネーターを中心として、環境美化活動が多くのボランティアによって継続され、常に校内や学校の周りにはいつも美しい花が咲いている環境がつくられている。さらに、「クリーンタイム」では、児童と多くのボランティアの方々と一緒に、学校周辺の清掃活動の取組にも積極的に取り組んでいる。これらの取組が、児童の環境美化への意識向上により効果をもたらしていると考えている。自分たちの学び舎が、たくさんの方々の協力のもとに維持管理されていることや、みんなが使う物を大切に使い、使った後はきちんと片付けることをこれからも繰り返し話をし、指導を

5 授業について ①

- 児童 5. 授業はわかりやすいですか。
保護者 5. わかりやすい授業が行われている学校だと思いますか。
教職員 5. 本校は、わかりやすい授業に努めていますか。

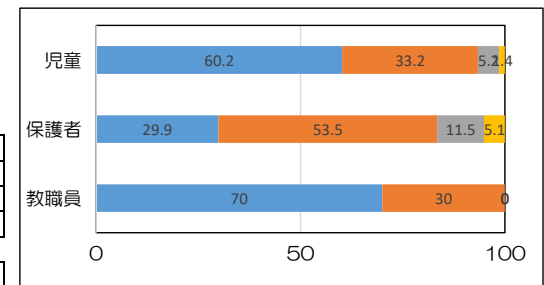
		4	3	2	1	4+3	R5との比較
5	児童	60.2	33.2	5.2	1.4	93.4	↑ 2.7
5	保護者	29.9	53.5	11.5	5.1	83.4	↓ 2.2
5	教職員	70	30	0	0	100	↑ 4.2

回答数

児童	211
保護者	157
教職員	20

(考察)

R4との比較
↑ 0.4
↓ 4.4
↑ 6



児童の肯定的評価が良好な数値を示しているが、「授業がわかりにくい」と感じている児童がいることを忘れてはならない。教職員は日々わかりやすい授業を目指して、ICTの効果的な活用をはじめとする様々な授業改善に取り組んでいるが、引き続き自己研鑽を積みむことが必要だと考える。「教師は授業で勝負する」と言われるように確かな授業力の確立が求められる中で、学び続けることが教職員としてのあるべき姿であると我々がしっかりと自覚しなければならない。

當麻小学校では令和5年、6年度の2年間、読む力を付けるために国語科を中心に研究を行い、授業改善に取り組んできた。今後も、教職員の学力向上に向けた取組やその努力が、児童の学習意欲や学力の向上として結果があらわれるように、引き続き、教職員が研修等を通して自己研鑽を積み、指導力向上に努めていかなければならない。

6 授業について ②

- 児童 6. 授業中、先生の話をよく聞いていますか。
保護者 6. 子どもたちは、授業中、先生の話をよく聞けていると思いますか。
教職員 6. 子どもたちは、授業中、話をよく聞いていますか。

		4	3	2	1	4+3	R5との比較
6	児童	56.9	35.5	6.2	1.4	92.4	↓ 3.2
6	保護者	21.7	61.1	15.3	1.9	82.8	↓ 2.3
6	教職員	50	50	0	0	100	↑ 12.5

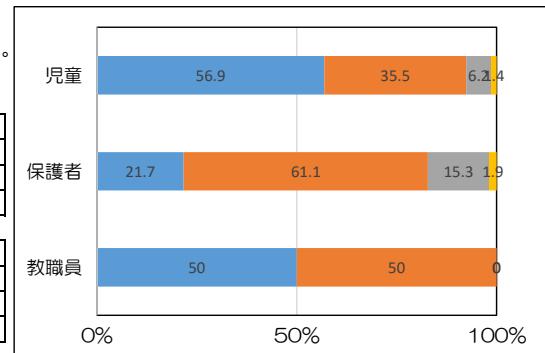
回答数

児童	211
保護者	157
教職員	20

R4との比較
↑ 0.4
↓ 2.2
↑ 11

(考察)

肯定的評価については、児童や保護者の評価としては概ね良好といえる。「當麻スタンダード」をもとに、学校全体として学習規律の確立、聞く(聴く)力や聞く(聴く)態度の向上を目指してきた。児童は、全般的に学習中は落ち着いた態度であり、よく集中していると見られるが、肯定的評価のさらなる向上を教職員の課題としてしっかりと共通理解し、今後の授業改善に臨まなければならない。また、聞く(聴く)力の確かな育成には、例えば、「話をする人の顔を見ながら」「うなづきながら」「メモをとりながら」「質問を考えながら」など、発達段階に応じたわかりやすい評価の指標を児童に具体的に示していく必要がある。児童の「聞く」という活動は、指導者側の「聞かせる中身」と深くつながっていると同時に、学習活動の基礎・基本だといえる。「聞く」から「聴く」、「訊く」、さらにこれらの「きく」活動を通した学習効果として「効く」へと深化していけるよう、指導者側の意識をさらに高めていかなければならないと考える。そのためには、児童が主体的に「きく」ことができる授業づくりが必要であり、魅力ある授業を今後もめざすことが大切である。



7 家庭学習について

- 児童 7. 家庭で宿題やそれ以外の勉強をしていますか。
保護者 7. 子どもたちは家で宿題やそれ以外の勉強をしていますか。
教職員 7. 児童は家庭学習に取り組んでいると思いますか。

		4	3	2	1	4+3	R5との比較
7	児童	57.3	23.2	10	9.5	80.5	↑ 3
7	保護者	35	31.2	22.3	11.5	66.2	↓ 0.7
7	教職員	45	45	10	0	90	↑ 6.7

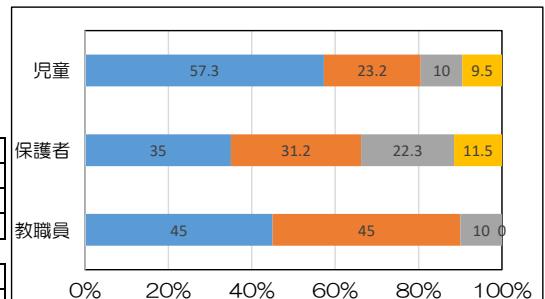
回答数

児童	211
保護者	157
教職員	20

R4との比較
↑ 2.5
↓ 5.8
↑ 8

(考察)

児童の学習習慣が身に付くように、家庭学習の定着を目指して取り組んでいるが、例年、課題として取り上げられている。また、児童の肯定的な評価が80%を上回っているが、保護者との乖離が目立つ。家庭学習が定着しない理由として考えられることは、学習塾等の習い事やそこで出される課題等が児童にとっての優先順位の上位となっていたり、遊ぶことが優先されたり、また、やる気はあるものの、児童にとって宿題として出される内容が難しかったり、その量が多すぎたりと様々なことが考えられる。また、家庭学習の定着には、家庭の協力が不可欠であることも否めない。今後とも、家庭学習に関する情報を提供し、家庭と連携して、児童の学習習慣を定着させていきたい。各学年の発達段階に応じた「家庭学習の手引き」や奈良県立教育研究所が発行している「家庭教育」をホームページに掲載していることを、家庭にも共有していく。生涯に渡って「学び続ける」ということが教育のめざすところであり、学校だけではなく地域の取組としても家庭学習の定着が求められている。学校は子どもたちの基本的な生活習慣の一つとして家庭学習を位置づけ、「家庭学習のてびき」等で家庭学習の重要性についての学校からの発信や啓発を今後も継続的に行っていきたい。



8 内容理解について

- 保護者 8. 教職員は、児童が学習理解しているかどうか気を配っていると思いますか。
教職員 8. 児童が学習内容を理解しているかどうか気を配っていますか。

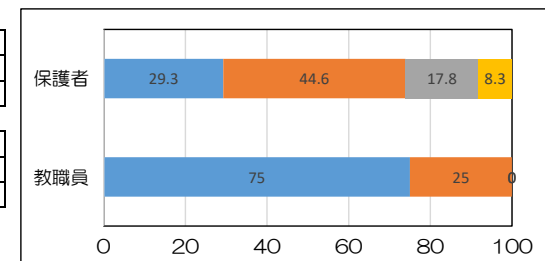
		4	3	2	1	4+3	R5との比較
8	保護者	29.3	44.6	17.8	8.3	73.9	↓ 9.2
8	教職員	75	25	0	0	100	↓ 0

回答数

保護者	157
教職員	20

R4との比較
↑ 9.9
↑ 6

(考察)

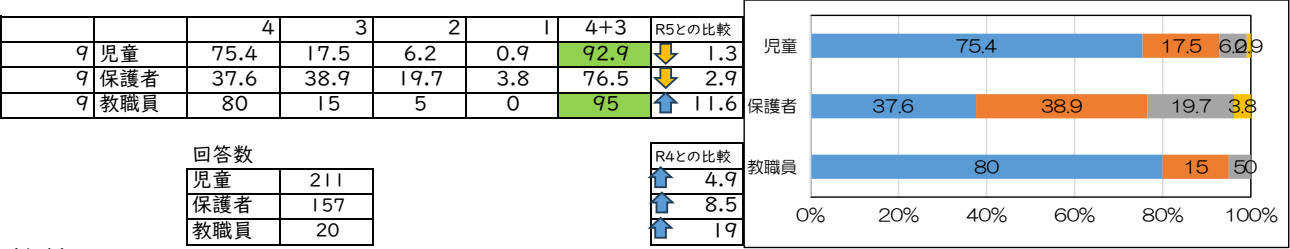


肯定的回答の割合は、教職員が100%と良好であるが、保護者の肯定的な評価は昨年度より9.2%低下し73.9%と大きな乖離がある。教職員は日々児童の学習理解に気を配り、様々な手立てを講じている。今年度から朝学習にも取り組み、基礎基本の定着を図っているが、より一層家庭との連携を図っていく必要があることが、この結果にもあらわれている。

教職員は、日頃の授業を省察するとともに、個々の児童の実態を把握し、きめ細かな指導につなげようと努力する必要がある。日々の授業の大切さを意識し、児童一人一人に寄り添いながらより一層学力向上に努めなければならない。そのためには、児童の理解度を把握し、基礎・基本の定着を図る。さらに、個々のつまづきを把握し日頃の授業にいかしながら児童の学習理解を深め学力向上につなげていきたい。今後は、今まで以上に学習内容を理解しているか気を配り、家庭と連携して進めていきたい。

9 体力作りについて

- 児童8. 学校で外遊びや体育の授業をがんばっていますか。
- 保護者9. 子ども達は進んで運動や外遊びをしていると思いますか。
- 教職員9. 学校は体育の授業や外遊びを中心に体力づくりの取組を推進していると思いますか。

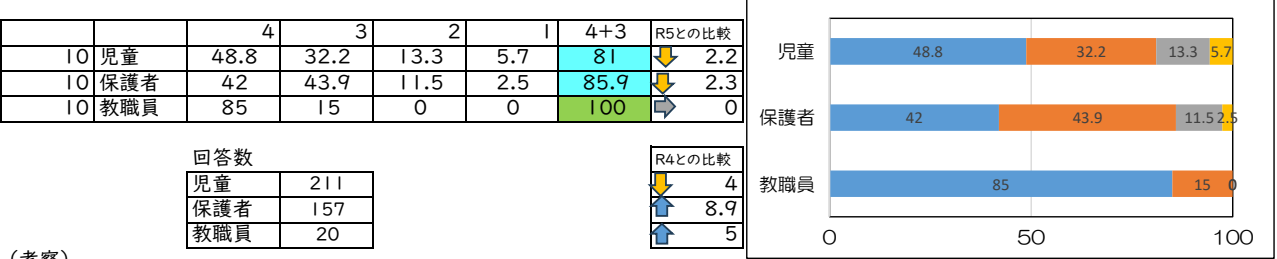


(考察)

児童と教職員は肯定的な評価が高いが、保護者の中には、児童の体力作りについて心配されている方もおられることが分かる。この乖離は、家庭での運動や外遊びの機会が少ないことなどが考えられる。生涯にわたって健康を保持・増進しようとする意欲の醸成とともに、体力づくりや運動能力の向上という課題を、学校教育の中でどのように取り組んでいくかということが問われている。そのためには、業間休みや昼休みを使っての学級遊びの設定や、なわとび集会、跳び箱月間の実施など、運動場で外遊びをしたり、目標をもって体育の授業に臨むことを意図した取組を、今後も進めていくことが必要である。また、1学期の体力・運動能力テストに始まる一連の体育的行事を学校の年間行事計画の中に明確に位置付け、家庭における更なる運動や体力づくりの取組に協力していただくことも必要であると考ええる。

10 教育相談について

- 児童9. 先生に、相談することができますか。
- 保護者10. 学校は、児童や保護者からの相談に応じていると思いますか。
- 教職員10. 本校は児童や保護者からの相談に応じていますか。

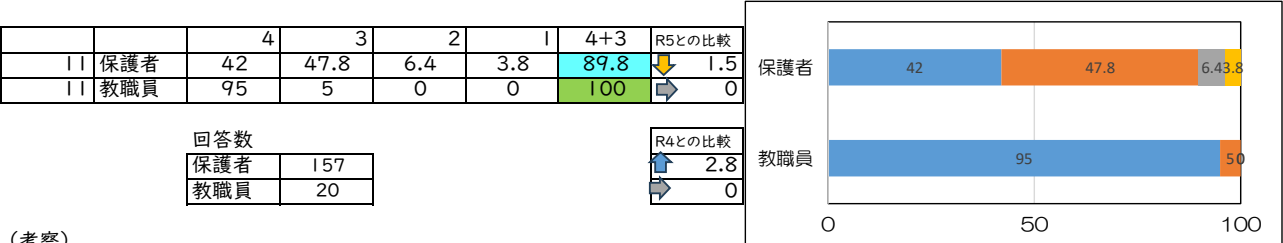


(考察)

教職員の肯定的な評価が100%であるが、児童の肯定的評価が81%、保護者は85.9%となっている。概ね肯定的な評価は多いが、保護者や児童と教職員との肯定的評価の乖離は検証の必要がある。児童の日頃の様子に注意しながら、児童に寄り添うことができるようにするために、教職員全体で児童を見守りその様子を共有し手立てを講ずることが大切である。児童のよき相談相手として、また、学校が保護者に安心を担保する存在として、教職員は、児童にしっかりと寄り添っていかなければならない。児童の発達段階も考慮したうえで、たとえば、家庭訪問や個人面談の機会を設定していく等、具体的な取組を行うことが、相談できない児童の心を開ききっかけとなるのではないかと考える。また、教職員は児童や保護者の良き相談相手として、どうあるべきかという教育相談等の研修も進めていく必要がある。

11 情報提供について

- 保護者11. 学校は、「学校だより」「学年通信」、ホームページ等を通じて、家庭に学校の情報を積極的に伝えられていると思いますか。
- 教職員11. 本校は、「学校だより」「学年通信」、ホームページ等を通じて、保護者に学校の情報を積極的に伝えていると思いますか。



(考察)

肯定的回答の割合は、保護者が89.8%、教職員が100%と良好な結果である。学校は、より開かれた学校をめざす情報提供・開示の手立てとして、学校だより、学年・学級通信の発行、学校ホームページの充実等を行っている。本年度は学校ホームページにて日々様子を小まめに更新してきたが、更新している情報の存在そのものを周知できなかった面もある。来年度は創立150周年に関わる事業も展開していくが、これらも積極的に発信していきたい。また、緊急時の配信にも気を配り、保護者や児童に不安を与える事態とならぬよう、よりスピーディーで正確な情報提供を心がけることが大切である。保護者や地域に、学校の教育方針や願い、教職員の思いをしっかりと伝えていくことで、学校と保護者との協働が可能となり、より強固な関係が築かれるものと考ええる。